

# 経済学部

## 准教授 小川 健

日本語で「トークンエコノミー」を扱った数少ない本の1冊。価値を理解する人・地域の間だけで使える・流通する貨幣・お金である「トークン」を活用する方法は、(TポイントやAmazonポイントなどの)ポイント制や(川崎市多摩区の「たま」や岐阜県高山市の「さるぼぼコイン」などの)地域通貨など数多くの形で始まっている。そうした「トークン」が発行・流通・普及し易い仕組みが、暗号資産(仮想通貨)を構成するブロックチェーン・分散型台帳技術の発展とスマホの普及により可能になった。地域やコミュニティ内だけで価値を回すことができる在り方である「トークン」は、地域の活性化に繋がる方法もあれば、広く一般には受け入れられるものではないけれども価値観を共有する人の中では経済・社会を構成できるものもある。ICO(initial coin offering)と言って、手軽に資金を「国境を越えて」集められる方法もある。そうした「トークンエコノミー」を構成する上で大事なことは何か、それを学べるのが本書である。「ビジネスの」とはあるが、直接事業を行う場合に限らず、大学生がトークンエコノミーについて学ぶ上でもこの本は非常に有益である。この分野についてはどうしても技術的な話が多い本や怪しげな本も多い中、基礎から易しく学べて「お金とは何か」見つめ直せる本と言えよう。



高 榮郁(2019)『トークンエコノミービジネスの教科書』

KADOKAWA

本 館: K/338/Ko11 111043253

Knowledge Base: 338/Ko11 111068771

